

標準化研究会

- 標準化を巡る課題として、市町村の類型(指定都市、中核市等)による事務権限の違いや、人口規模等の違いなどを提示。
 - 大規模自治体でのクラウド化の困難さを指摘。
 - 自治体の共同クラウドの導入に当たって、参加団体間の業務フローを統一する必要性や、首長の強力なリーダーシップの必要性を指摘。
- ⇒ 標準化を巡る重要な論点を指摘したが、方策の具体性が課題。

カスタマイズ抑制検討会

- 全市区町村におけるクラウド導入に向けた取組の加速化を目指して議論。
- とりわけ、情報システムに係るパッケージソフトを活用する上でのカスタマイズ抑制に注目して、クラウド化の課題を検討。
⇒ 業務プロセスがシステムに与える影響を課題として認識しつつ、システム調達を行う際、いかにカスタマイズを抑制するかを中心に議論。

これまでの取組

- 自治体の情報システムの共同クラウド化は進捗に差が大きく、特に人口20万以上の都市では、共同クラウド化を行っているのは約3%にすぎない。(人口5万以下の市町村では約26%、人口5万以上20万以下の市町村では約11%)
- 地域情報プラットフォームは約8割を越える自治体で準拠製品が導入されているものの、福祉分野など十分に普及していない分野がある。
- 将来的なデータ移行経費を削減し、ベンダロックインを回避するための「中間標準レイアウト」の活用は必ずしも進んでいない。

2040年頃にかけて、若年労働力の減少等により、自治体の経営資源が大きく制約されることから、自治体規模の大小に関わらず、自治体ごとの情報システムの重複投資をやめ、維持・更新に掛かる労力・負担から自治体を解放することが求められる。また、住民等の利便性の観点から、自治体に対する申請手続やシステム間の情報連携のデジタル化が求められる。

まずは、標準化に関する実務上の課題を整理した上で、標準化を進めるために取りうる方策を検討してはどうか。

- (例) ● クラウド化については、まずは、比較的カスタマイズが少ない住民基本台帳に関するシステムを取り上げ、議論の題材として、これまでクラウド化があまり進んでこなかった中核市・指定都市等を取り上げてはどうか。
- データ項目等の標準化を進めるため、中間標準レイアウトやデータ標準レイアウト等を基点に検討してはどうか。
 - 具体的な作業としては、複数の自治体のシステム及びそのカスタマイズ、業務フロー等の類似・相違を調べた上で、標準化の効果・課題や方策を議論することとしてはどうか。帳票については、ペーパーレス化による効率化を目標としつつ、その実現までに住民等の利便性向上や効率化につながる方策を検討してはどうか。

AI・ロボティクスの活用について

民間企業の取組

【AI関係】

- ・金融業界では、トレーダーの代わりに、AIがコンピュータによるアルゴリズム取引を行う。
- ・イベント等において、顔認証AIエンジンを活用し、出入室管理や来場者分析を行う。

【RPA関係】

- ・銀行では、伝票入力などの定型的で煩雑な事務処理作業にRPAを導入し、作業時間を削減。

自治体の取組

【AI関係】

- ・保育所利用調整業務を省力化する。(例:さいたま市)
- ・道路の画像から損傷の有無を自動で抽出する。(例:千葉市)

【RPA関係】

- ・住民等からの申請書類や他機関等から送付された書類を別のシステムに手作業で入力する作業等を自動処理する。(例:熊本県宇城市、茨城県つくば市)
- ⇒ 自治体の関心は高まっているものの、個別に一から実証実験を行うこととなっており、効率的・効果的な導入を求めるニーズが存在する。

海外における行政での取組

【AI関係】

- ・政府機関に寄せられる質問に回答するAI バーチャルアシスタントを導入する。(米・国土安全保障省)

【RPA関係】

- ・政府が行う統計調査にRPAを導入する。
(インドネシア政府)



2040年頃にかけて、若年労働力の減少等により、自治体の経営資源が大きく制約され、また、急速な技術革新により、社会経済構造が大きく変化することを見据えながら、

- 国や自治体の動き、民間・海外も含めた技術発展の動向を踏まえながら、AI・ロボティクスの活用が有効な類型を検討してはどうか。
- 各自治体がAI・ロボティクスを個別に導入すると、重複投資となりうることを踏まえ、動き出しつつあるAI・ロボティクスの自治体の導入を効果的に・効率的に行う方策を検討してはどうか。